

中教審が示す キャリア教育 新たな 方向性

中央教育審議会答申が示すキャリア教育の姿

平成 23 年 1 月、中央教育審議会は
答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」を公表しました。
ここでは、本答申が提示した新たな方向性の説明に絞り、
今後目指すべきキャリア教育の在り方の特質を整理します。



Q&A

今後のキャリア教育の在り方をめぐる疑問にお答えします。

Q1 中央教育審議会が今回提示したキャリア教育において「勤労観・職業観」は重視されないのでしょうか？

A1 いいえ。今まで同様、重視されます。ただし、直接それらを育てるのではなく、「基礎的・汎用的能力」の育成を主軸とした体系的なキャリア教育を通して、一人一人の児童生徒が、勤労観・職業観をはじめとする価値観を形成・確立できるよう働きかけていくことが求められています。

Q2 「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」への転換はどのようにすればよいのですか？

A2 「基礎的・汎用的能力」への転換にあたっては、「4領域8能力」に基づくこれまでの実践を生かして移行していくことが大切です。その際、両者が共通して、それぞれの学校・地域等の実情や、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、学校ごとに育成しようとする力の目標を定めることを前提としている点は、特に重要な視点となります。



新 キャリア教育の新たな定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、
必要な基盤となる能力や態度を育てること
を通して、キャリア発達を促す教育。

●「キャリア」とは何か？

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもあるが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見だしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。(答申第1章1(1)本文)

また、このように、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。(答申第1章1(1)脚注)

●新たな定義の必要性

中央教育審議会「初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申)」(平成11年)では、キャリア教育を「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」として、進路を選択することにより重点が置かれていると解釈された。また、キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書(平成16年)では、キャリア教育を「『キャリア』概念に基づき『児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育』」ととらえ、「端的には」という限定付きながら「勤労観、職業観を育てる教育」としたこともあり、勤労観・職業観の育成のみに焦点が絞られてしまい、現時点においては社会的・職業的自立のために必要な能力の育成がやや軽視されてしまっていることが課題として生じている。(答申第1章1(1)脚注) ※Q1&A1 参照

新

●「4領域8能力」の課題

今日「4領域8能力」と広く呼ばれる「キャリア発達にかかわる諸能力(例)」(平成14年・国立教育政策研究所生徒指導研究センター)については、(1)高等学校までの想定にとどまっているため、生涯を通じて育成される能力という観点から、社会人として実際に求められる能力との共通言語となっていない(2)提示されている能力は例示にもかかわらず、学校現場では固定的にとらえている場合が多い(3)領域や能力の説明について十分な理解がなされないまま、能力等の名称の語感や印象に依拠した実践が散見される。等の課題が指摘されてきました。

●「基礎的・汎用的能力」とは何か？

中央教育審議会では、「4領域8能力」をめぐりこれらの問題を克服するため、就職の際に重視される能力や、その後に提唱された類似性の高い各種の能力論(内閣府「人間力」、経済産業省「社会人基礎力」、厚生労働省「就職基礎能力」など)とともに、改めて分析を加え、「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力」として再構成して提示することとしました。※Q2&A2 参照

その結果得られたのが「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つから成る「基礎的・汎用的能力」です。右記では、それぞれの能力についての説明を答申から引用します。

「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」へ

●人間関係形成・社会形成能力

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

●自己理解・自己管理能力

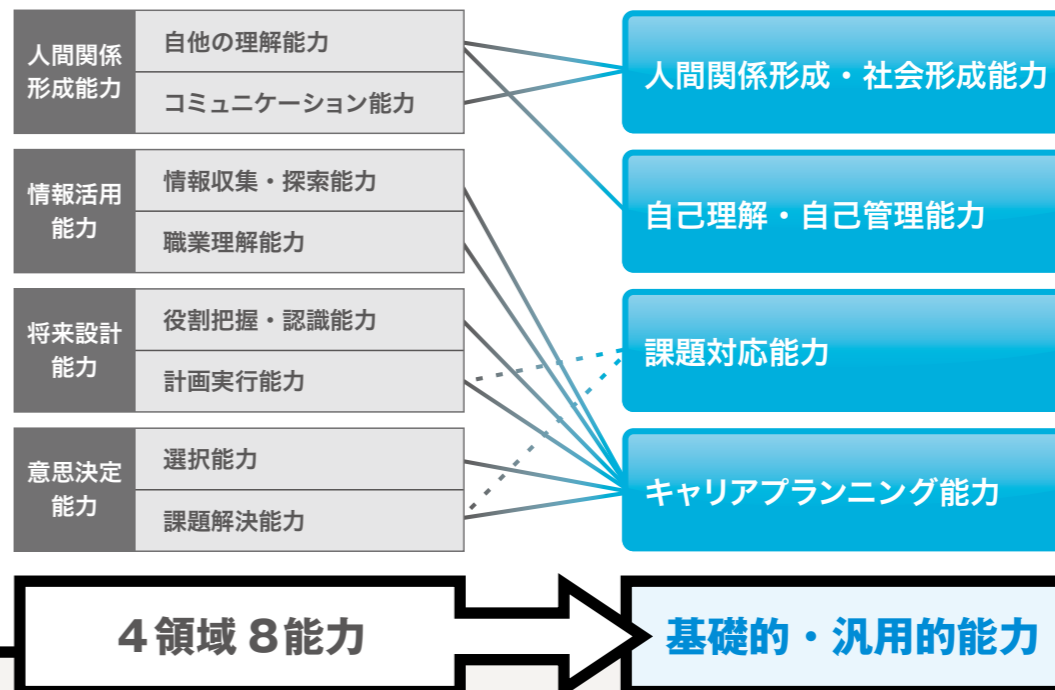
「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じる」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

●課題対応能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

●キャリアプランニング能力

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。



※図中の破線は両者の関係性が相対的に見て弱いことを示している。